

三菱パイプ用ファン〈壁据付専用〉
居室・浴室・トイレ・洗面所用

形名	電源仕様	機能
V-20PS3	電源コード直付	風圧式シャッター付
V-20PSD3	速結端子	

据付説明書

販売店・工事店様用

据付終了後は、必ずこの説明書をお客様にお渡しください。

- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・専門の工事店様が実施してください。（間違った据付け、工事は、故障や事故の原因になります）
- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- 用途にあった場所に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。（故障の原因になります）
- 形名によって据付け方法が異なります。予めご使用の形名をご確認ください。
- 直接屋外に排気する場合は、雨水浸入防止のためシステム部材（屋外フードなど）を据付けてください。
- 雨水浸入防止のため外風の吹き付けの強い場所では耐外風高性能フードを据付けることをおすすめします。
- 接続パイプは市販の塩化ビニル管（VU管、VP管（呼び径200mm））、または鋼板管（内径200mm）のいずれかをご使用ください。
- 製品の運転・停止にはシステム部材または市販のコントロールスイッチが必要です。

1. 安全のために必ず守ること

据付けを始める前に、誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を次の表示で区分して説明しておりますので、よくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

	警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
	●内釜式風呂を据付けた浴室には据付けない 排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因。
	●製品を水につけたり、水をかけたりしない ショート・感電の原因。
	●改造や必要以上の分解はしない 火災・感電・けがの原因。 分解・修理は修理技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。
	●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが、電氣的に接触しないよう据付ける 漏電・発火の原因。
	●交流100Vを使用する 火災・感電の原因。
	●アース線を確実に取付け（D種接地工事）、漏電しゃ断器を設ける 故障や漏電のときに感電の原因。

	注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
	●高温（40℃以上）になる場所や直接炎があたったり、油煙の多い場所や有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない 火災の原因。
	●電気工事は必ず電気工事店に依頼する 感電・火災の原因。
	●部品の据付けは確実に 落下によるけがの原因。
	●本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に 落下によるけがの原因。
	●据付けの際は必ず手袋を着用する 着用しないときが原因。
	●電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。
	●据付け後、長期間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜くか分電盤のブレーカーを切る 絶縁劣化による感電・漏電火災の原因。

2. 据付け前のお願い

- 高温（40℃以上）になるところに据付けないでください。（故障の原因になります）
- 塩害、温泉害の発生している場所には据付けないでください。（故障の原因になります）
- 燃焼機器の排気口の近くには据付けないでください。（燃焼機器から排出された排気ガスが含まれた外気が、強風のときなどに室内に侵入すると、異臭などの原因になります）
- システム部材（屋外フードなど）は壁厚にあったものを選んでください。（壁厚により据付けられないものがあります）
- 壁板は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものを据付けてください。
- アルミフレキシブルダクトへの据付けはしないでください。（振動の原因になります）
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 本製品は壁据付専用です。天井には絶対に据付けないでください。（シャッターが開かないため換気風量が確保できなくなります）

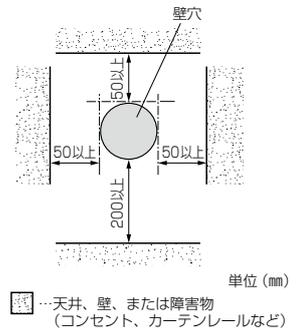
3. 各部のなまえと外形寸法図

⇒梱包箱をご確認ください

4. 据付け方法

1 据付け前の準備

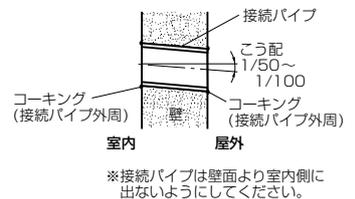
1. 据付場所を決めて壁穴をあける。
 - 右図の壁穴位置をご確認ください。
 - 接続パイプには塩化ビニル管の薄肉（VU）と厚肉（VP）管および鋼板管があります。壁厚に応じて長さを決めてください。
 - 必ず床面より1800mm以上のメンテナンス可能な位置に据付けてください。



お願い

- 据付位置は右上図の位置になるようにしてください。
右上図の寸法より小さくなりますと製品が据付けられない場合やメンテナンスができなくなる場合があります。

2. 壁穴に接続パイプを確実に固定する。
接続パイプと壁のすき間はコーキング処理を施します。
 - 速結端子タイプは電源電線を室内に引き込んでから（電気工事参照）行ってください。
 - 固定が不十分ですと振動したり異常音が発生する原因になります。
 - 室内への水浸入を防ぐため、接続パイプは室内壁面まで差し込みます。

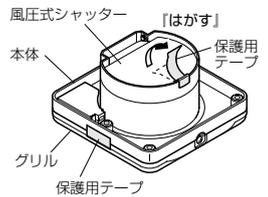


お願い

- 接続パイプは雨水の浸入を防ぐため屋外側に下りこう配をつけ、固定してください。

本体の準備

- 保護用テープをはがす。
- 3** 本体の据付け の前に確実にテープをはがしてください。（シャッター部、およびグリル側面2か所）



4. 据付方法 つづき

2 電気工事

電源電線の接続・電気工事などは、必ず専門の工事店へご依頼ください。

■市販のスイッチを使用される場合は適切なスイッチを選定して結線してください。

⚠ 警告

- 交流 100V を使用する
火災・感電の原因。
- D種接地工事および漏電しゃ断器の取付けを確実に
故障や漏電のとき、感電の原因。

⚠ 注意

- 電気工事は電気工事の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（および同解説）および「内線規程」に従って安全・確実に行う
接続不良や誤った電気工事は、火災・感電の原因。

電源コード直付タイプの場合

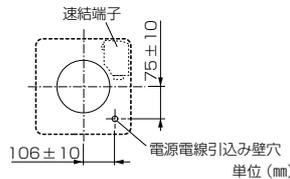
電線同士の接続を行う場合は電気工事の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令（および同解説）」および「内線規程」に従い実施してください。

- 防火ダンパー付フードを使用される場合、ダンパーが閉じるときは電源電線をはさまないように配線してください。
- 屋外に電源コンセントを設ける場合は雨の当たらないところに設けてください。

速結端子タイプの場合

1. 電源電線を下図の位置から室内に引き込む。

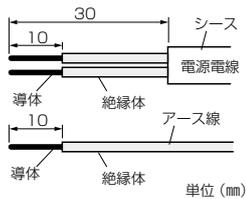
- 接地有りの場合、電源電線は VVF φ 1.6 または φ 2.0 2 芯、VVF φ 1.6 3 芯をご使用ください。（接地なしの場合は VVF φ 1.6 または φ 2.0 2 芯をご使用ください）



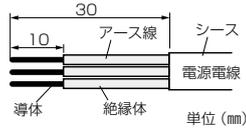
2. 電源電線の先端を下図に合わせて皮むきする。

- 端子部への水の浸入・ほこりの侵入を防ぐため皮むき寸法を必ず守ってください。

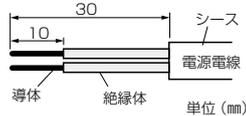
■接地有り 2 芯 VVF + 単芯 VVF の場合



■接地有り 3 芯 VVF の場合



■接地なし 2 芯 VVF の場合



■接続仕様

	仕様	据付場所
接地工有り	VVF 2 芯 + 単芯 (アース)	浴室 (居室・トイレ・洗面所)
	VVF 3 芯 (アース)	
接地工なし	VVF 2 芯	居室・トイレ・洗面所

3 本体の据付け

1. グリル締付ネジをゆるめて本体からグリルをはずす。



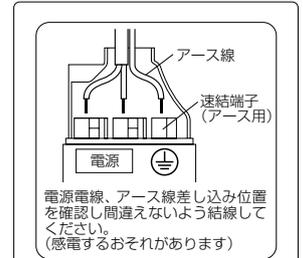
2. 結線をする。
(電気工事は電気工事の方が実施してください)

- 浴室など湿気が多い場所で使用する
場合、D種接地工事および漏電しゃ断器の取付けを確実に
行う。

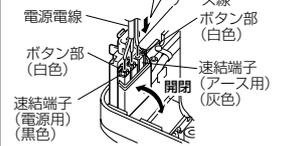
電源コード直付タイプの場合

①電源コードと電源電線との接続は、電線に適合したリングスリーブなどを使用し、専用のカシメ工具を用いて確実にカシメ接続して絶縁処理をします。

②電源電線、アース線をパイプの中へ入れるときは、本体のみぞに通してください。



電源電線、アース線差し込み位置を確認し間違えないよう結線してください。（感電するおそれがあります）

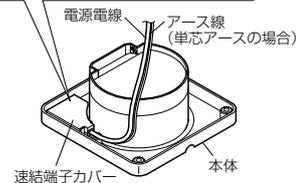


速結端子タイプの場合

- ①速結端子カバーを右図のように開ける。
- ②電源電線・アース線を速結端子に差し込む。
- ③速結端子カバーを元通り閉じ確実に固定する。

お願い

- 電源電線・アース線は確実に速結端子に差し込みます。速結端子より導体が出ないようにしてください。
- 電源電線・アース線を軽く引いて速結端子に確実に固定されていることを確認してください。
- 電源電線・アース線をかみ込まないように本体面に密着させて配線してください。
- 電源電線・アース線を速結端子よりはずす場合は、ボタン部（白色）を押しながら電源電線・アース線を引き抜いてください。

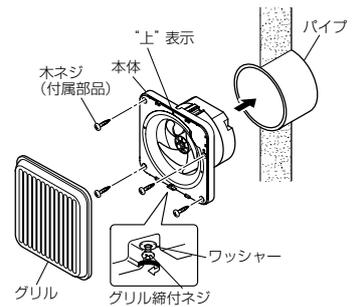


3. 本体の上下を確認してパイプに差し込み、付属の木ネジ4本で本体を固定する。

- 本体の刻印「上」を上側にして据付けてください。
- 石膏ボードに据付ける場合は、市販の石膏ボード用アンカーを必ず使用してください。

お願い

- インパクトドライバーは使用しないでください。本体の固定部分が破損するおそれがあります。



4. グリルを本体に据付ける。

- グリルの方向を間違えないよう本体にはめ込み、ワッシャーをグリルの外側にあててグリル締付ネジを締め付け固定します。

5. 以上の据付けが終了した後、本体とグリルが確実に据付けられているか確認する。

5. 試運転

試運転を行う。

- 製品が運転・停止、シャッターが開・閉するか確認してください。
- 異常な音・振動などがなければ確認してください。